

政策展開における ソーシャル・キャピタルの計測

ソーシャル・キャピタル政策展開研究会

2007年10月31日

石田 祐

(ひょうご震災記念21世紀研究機構)

なぜSC計測が議論になるのか

■ ソーシャル・キャピタル(SC)の定義：社会関係性

- 個人を対象とした調査が多く、本来の意味でのSCを捉えられていない

- 「社会関係性」という人と人、組織と組織、人と組織などのつながりそのもの

- 重層的であり、構造解明が終わっていない

- 同じネットワークに属している個人が、それぞれ別のネットワークにも属している

- 計測に工夫が必要である

(流れ) SC計測の課題と工夫の必要性

- ソーシャル・キャピタルの「計測事象」を調査の実際上において確定すること
- 社会関係性を「地域単位」で捉えること
- 社会関係性の「変化」を捉えること

(序) ソーシャル・キャピタルに関する これまでの計測

- *Citizenship Survey* (Home Office, UK)
- *Social Capital Benchmark Survey* (Putnam & Community Foundations, USA)
- *Social Capital Survey* (NESF, Ireland)
- 『ソーシャル・キャピタル調査』(内閣府 2003, 2005)
- 『農村ソーシャル・キャピタル調査』(農水省 2007)

他多数.....

ソーシャル・キャピタルの定義

■ 「信頼」、「規範」、「ネットワーク」(Putnamなど)

- 信頼: 一般的信頼、特定の信頼 (World Values Survey, Uslaner)
- 規範: マナー、互酬性
- ネットワーク: つきあいの幅や深さ、社会的活動への参加

(1) 計測事象を確定する難しさ

- SCは社会関係そのもの
- 2人以上の存在が必要
- その間の関係性の広さや強さを見る必要
 - Bonding/Bridging/Linking, Strong tie/Weak tie
- 地域単位、結びつき単位による影響
- 重層的なものであるために計測事象が多い

果たしてそれらの項目でいいのか？ (測りきれているのか)

■ 大きな問題:

- 「ソーシャル・キャピタルを具体的にどう定義するか？」
- 社会関係の形は地域や年齢等によって多様
 - Bonding/Bridging/Linking
- 評価基準はその人次第
- 個別具体の状況を設定した設問による対応

果たしてそれらの項目でいいのか？

■「信頼」

- 信頼できる——中間——注意するに越したことはない
- (9件法)

■「親戚・親類が頼りになるか」

- どのように親戚・親類が居住しているか(つきあいの頻度にも影響)

■「地縁活動への参加」

- まちの歴史によって垂直的関係か水平的関係か異なる

技術的な問題・課題

- 事例：内閣府調査(2003, 2005)

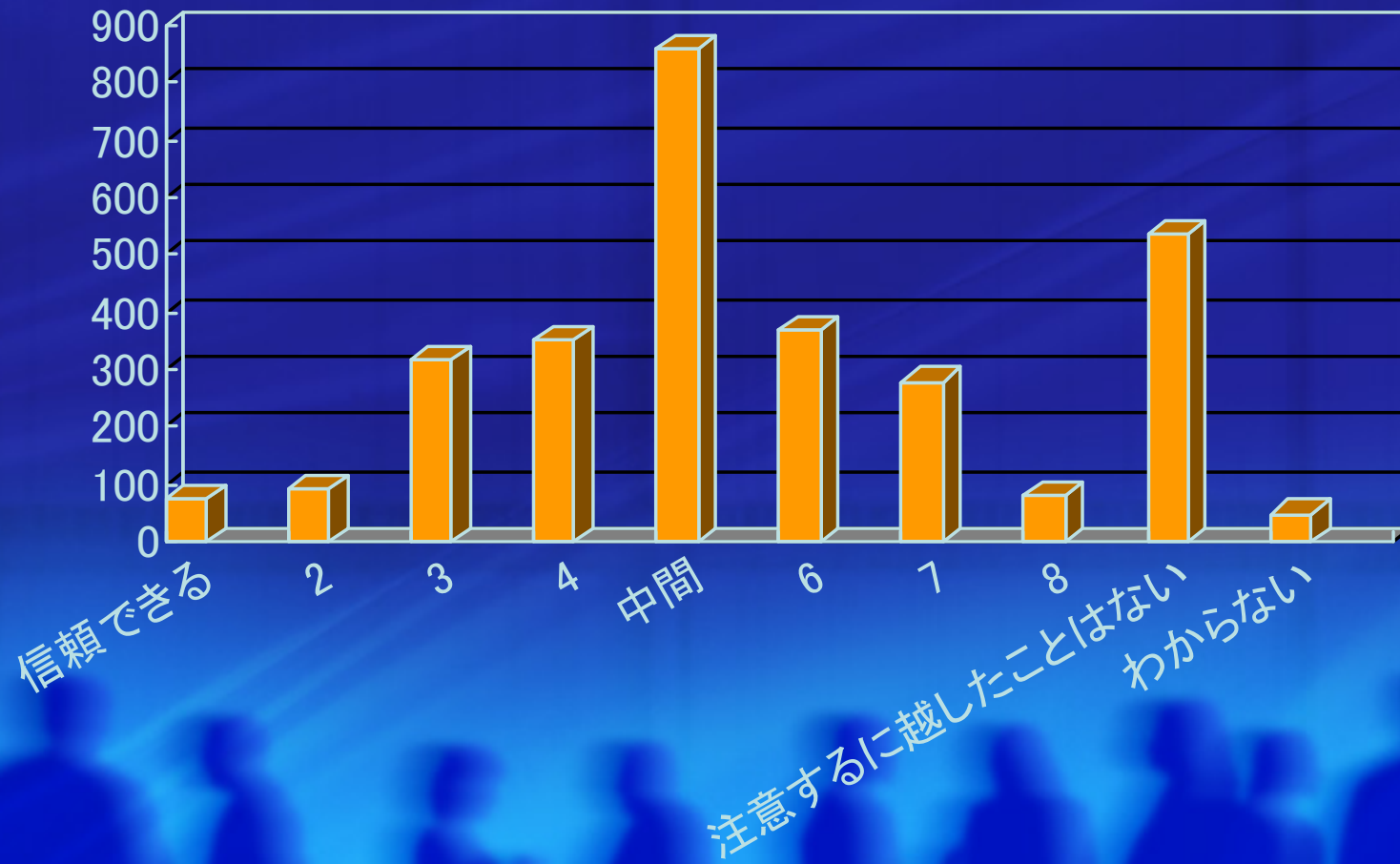
- 「信頼」に関する設問

- 果たしてそれらの問い方でいいのか？

- 信頼できる———中間———注意するに越したことはない

- (9件法)

「あなたは一般的に人を信頼できますか？」



「あなたは一般的に人を信頼できますか？」



(2) 関係性を「地域単位」で捉える

- 地域的な政策を考慮するためには、SCを「地域単位」で捉える必要がある
- 近所関係や地域の活発さから居住している人々が影響を受ける
 - 後者は特に、「どの範囲の地域活動」が「どこに存在する人や組織」に影響するか
- GISでメッシュ単位で捉えるか
 - 地域性を考慮すると、小学校区で捉える方がいいが、そのような統計体制は既存ではない
- 地域のリーダー等の要素(柴内 2007)

(3) 関係性の「変化」を捉える

- 引越しを行った人は、「近所づきあい」という特定の信頼関係は低下するが、「友人・知人の信頼関係」は変化しないと予想される。また、一般的信頼についてはそれまでに培ったものを基礎に新しい場所で得る感覚によって変化することが予想される。
 - Eg. 被災後のコミュニティの維持／散在
- 一方で分析上、居住年数は統計的に有意にきかない
- 政策展開に進めるには緻密な分析とソーシャル・キャピタルの構造解明が不可欠(単純集計だけでは危険な結果を生みかねない)

政策展開に向けて SCの影響と構造の解明

- SCは、経済社会の変化や状態に対する説明変数として分析される
 - 市民活動、経済成長、ボランティア、学校での落第、出生率、コミュニティ関係、組織の効率性、など
- SCは、非説明変数としても分析される
 - NPOの形成される、学校が機能する、ネットワーク化が進む、など

政策展開に向けて ソーシャル・キャピタル把握の工夫

- その調査の目的に合わせることは可能
- 個別具体の設定(回答者はそれぞれに想像...その幅をどこまで絞るか)
 - Eg. GSSのように「自宅から1mile2以内で夜道を一人で歩いているとき、危険や不安を感じるか」
 - Eg. 「旅先で合う知らない人を信頼できますか？」
 - Eg. 「近所の顔見知りの方がゴミ出しのマナーが悪いのを見つけたとき、あるべき姿を本人に申し出ますか」
- Strong tie/Weak tieとともに影響力を持ち得る人や組織の存在を考慮したデータの把握
 - Eg. 地域リーダー制度に登録している人
 - Eg. NPO法人